



北区エバンジェリスト検証授業④

中1

『題名のない曲』で、私だけの表現をしよう

田端中学校・久米琉斗先生の実践

音楽の創作活動の授業です。生徒には、8小節のシンプルなメロディだけが書かれた楽譜が配られます。生徒たちはこの楽譜をリコーダーで演奏しながら、自分なりのイメージをふくらませて、題名や曲想、テンポ、強弱などをつけて表現していきます。

▶自ら完成イメージをもち、ゴール設定をする

全員同じメロディのはずですが、次第に曲の雰囲気が一変変わっていきます。題名を見ると、みんな題名にぴったりの雰囲気の曲で、生徒たちの感性の豊かさに驚かされたり、ニヤリとさせられたりしました。

楽譜の記載について、先生から、「演奏者にイメージを伝えるために、どんな書き方を試してもいいです。」と話があり、どうすれば分かりやすく他者に伝えられるか、生徒たちは考えていました。



文字や記号、文章で表現。

▶作品をよりよくするために、必要な情報を自ら収集する

「こうしなさい」と指示されるのではなく、「自分で決めていい」と言われた生徒たちは、教科書や合唱曲集から楽譜の書き方のアイデアを参照したり、「きたコン」で速度を確認したり、教科書にはない表現を探していました。「自分で決めていい」という言葉は、やる気を引き出す魔法の言葉だったのです。

▶気づきやアイデアを共有し参照し合う

共有画面では、友達の多くの情報やアイデアを見ることができます。生徒が自分に必要な情報等を選ぶことで、情報を選択できる情報活用能力を育てます。

▶3人組になり助言し合う

活動は3人グループで進めますが、個人のイメージや練習、発表、アドバイス、修正がとても効率よく進み、十分な活動時間を確保できていました。グループ活動では、人数の要素は大きいと改めて感じました。



▶動画撮影で自分の成長を客観的に振り返る

曲が完成したら自分の演奏を動画撮影して、ロイロノートに貼って先生に提出します。

友達の演奏をしっかりと聴いている。

演奏を動画撮影することは、生徒にとっては自分の演奏を客観的に聴くことができ、自分の成長を確かめることができます。教師にとっては、何度でも演奏を聞くことができるので、適正な評価につながるほか、生徒の良さや音楽的な工夫がより把握しやすくなります。

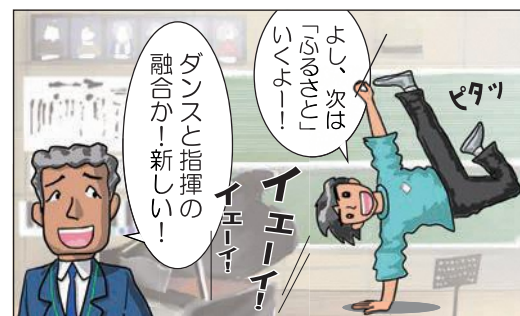
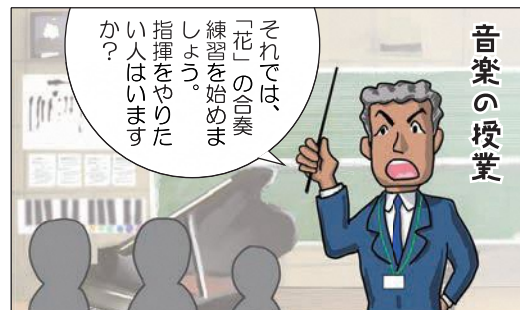
▶提出方法は生徒が選ぶ

ロイロノートのワークシートには、カードに直接手書き入力する生徒もいれば、紙の楽譜に書いて写真に撮ってロイロノートに貼る生徒もいました。提出方法によって生徒のアイデアが制限されないようにという先生の配慮だそうです。

今日の授業では、「きたコン」は生徒の創作活動を支える文房具のように活用されていました。「使うことが目的にならない」というのはこういうことなのだと感じました。

きたちゃんコンちゃん

by Toshi



子どもがチャレンジできる教室

今、社会では「多様性の尊重」が大切とされています。学校教育でも、子どもたちが自分らしく成長し、お互いを認め合い、それぞれが持つ可能性を最大限に発揮できるようにすることは、共生社会を築く上で非常に重要なことです。

漫画の例は少々大げさですが、教師はその子の興味・関心や強みなどを深く理解し、子どもたちが失敗を恐れずに新しいことに挑戦できる環境をつくってあげたいものです。みんなが同じことを同じように学ぶことも必要ですが、漫画のようなシーンがあったら楽しいですね。